CO-CONV ライセンス サーバー 5.0 ユーザー ガイド

株式会社 シー・オー・コンヴ

2018 年 12 月 4 日 13 時 02 分版

目次:

第 1 章　概要 5

1.1 CO-CONV ライセンス サーバーについて 5

1.2 動作環境 5

第 2 章　インストール 7

2.1 導入先サーバーの決定 7

2.2 サーバーのインストール 7

2.3 ライセンス サーバーへのログイン 8

2.4 ライセンス ファイルのダウンロード 8

2.5 ライセンス ファイルの導入 8

2.6 各製品の設定方法 9

第 3 章　環境設定 11

3.1 アカウントの追加方法 11

3.2 ポート番号の変更方法 11

3.3 証明書のエラーを抑止する手順 12

3.4 SSL 証明書の変更方法 13

3.5 起動失敗の原因確認 14

第 1 章

概要

1.1 CO-CONV ライセンス サーバーについて

CO-CONV ライセンス サーバーは CO-CONV が提供する各種製品のライセンス情報を管理します。

CO-CONV ライセンス サーバーが対象とする製品は次の通りです。

- CO-Store 5.0
- ReadCache 5.0
- CO-Spray 5.0

1.2 動作環境

OS	Windows Server 2016
ソフトウェア	NET Framework 4.6.1 以降
ネットワーク	TCP 49168 番ポート (デフォルト値) において接続を待機 (Web ブラウザーや各製品のサーバー モジュールから接続)。

第 2 章

インストール

2.1 導入先サーバーの決定

CO-CONV ライセンス サーバーは、CO-CONV 製品のサーバー モジュールから通信できるサーバー上にインストールしてください。各製品のサーバー モジュールと同一のサーバーにインストールしていただいてもかまいません。

2.2 サーバーのインストール

導入先のサーバーに管理者でログオンして、LicenseServer64.msi を実行してインストールします。

メモ: LicenseServer64.msi はインストール時に次の処理を実施します。

- C:\Program Files\CO-CONV\LicenseServer に実行ファイルをコピーします。
- C:\ProgramData\CO-CONV\LicenseServer\license フォルダーを作成します。
- スタートメニューに **CO-CONV ライセンス サーバー** を登録します。
- サービスに **CO-CONV ライセンス サーバー** を登録します。
- Windows ファイアウォールに対して受信の規則 **CO-CONV ライセンス サーバー** を追加します (49168 番ポートでの TCP 受信を許可します)。

TCP 49168 番ポートに対して、各製品のサーバーから TCP 49168 番ポートでアクセスできるように設定してください。

2.3 ライセンス サーバーへのログイン

スタートメニューから **CO-CONV ライセンス サーバー** を選択します。もしくは、Web ブラウザーで https://localhost:49168/ を開きます。

セキュリティー証明書のエラーが表示されるので、**[このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)]** を選択してページを開きます。

メモ: 証明書のエラーが表示されないようにするには **証明書のエラーを抑止する手順** の手順を実施してください。

CO-CONV ライセンスサーバーのログイン画面が表示されます。インストーラーを実行した Windows のアカウントのユーザー名、パスワードを入力して、**[ログイン]** ボタンを押します。

画面の下部に表示されている **サーバー ID** を確認します。

2.4 ライセンス ファイルのダウンロード

注意: この作業はインターネットに接続できる環境で実施してください。

1. https://license.co-conv.jp/ にアクセスして、当社から提供されたシリアルキーを入力します。
2. ライセンスサーバーの **[追加する]** ボタンを押します。サーバー名は任意の値を入力します。**サーバー ID** には先ほど確認した値を入力します。**[追加]** ボタンを押します。
3. **[ライセンス数変更]** ボタンを押して、利用したいライセンス数を設定してください。
4. **[ダウンロード]** ボタンを押して、ライセンスファイルをダウンロードします。

2.5 ライセンス ファイルの導入

1. CO-CONV ライセンスサーバーを導入したサーバーにログインします。
2. ダウンロードしたライセンスファイルを `C:\ProgramData\CO-CONV\LicenseServer\license` に配置します。
3. CO-CONV ライセンスサーバーを Web ブラウザーで開いて、ダウンロードしたライセンスの情報が表示されていることを確認します。

2.6 各製品の設定方法

各製品においてライセンス サーバーを指定する方法については、各製品のインストール マニュアルを参照してください。

第 3 章

環境設定

3.1 アカウントの追加方法

CO-CONV ライセンスサーバーにログインできるアカウントは、デフォルトではインストーラーを実行した Windows のアカウントに限定されています。

他の Windows のアカウントでもログインできるようにするには、次の手順で設定します。

1. CO-CONV ライセンスサーバーにログインします。
2. 右上の **[管理]** ボタンを押します (ボタンがない場合は管理者権限がないアカウントです。管理者権限があるアカウントでログインしてください)。
3. **[追加]** ボタンを押します。
4. ユーザー名とアカウントの種類を設定して **[追加]** ボタンを押します。

この管理画面からアカウントの編集・削除も実行できます。

ドメインユーザーでライセンスサーバーをインストールした場合は、認証に利用できる Windows アカウントはドメインユーザーのみです。逆に、ローカルユーザーでインストールした場合はローカルユーザーのみです。ドメイン・ローカルのどちらで認証するかを切り替えたい場合は対象のユーザーで再インストールしてください。

3.2 ポート番号の変更方法

ポート番号を変更するには `C:\ProgramData\CO-CONV\LicenseServer\appsettings.json` を管理者権限で起動したテキスト エディターで開いてください。

4 行目あたりでポート番号が指定されています。

```
1 {
2   "Network": {
```

(次のページに続く)

(前のページからの続き)

```
    // 待機するポート番号
    "Port": 49168,

    // 証明書のパス
    "CertPath": "%ProgramData%\\CO-CONV\\LicenseServer\\DefaultCert.pfx",

    // 証明書のパスワード
    "CertPassword": "1ic3nc3!"
  }
}
```

このポート番号を書き換えて、ファイルを保存してください。

サービスから **[CO-CONV ライセンス サーバー]** を再起動すると新しいポート番号で動作するようになります。ポート番号を変更した場合は、各製品で設定しているライセンスサーバーのポート番号も併せて変更してください。

3.3 証明書のエラーを抑止する手順

Web ブラウザーで CO-CONV ライセンス サーバーを開いたときに表示される証明書の警告を抑止する手順を説明します。

以下では Internet Explorer での手順を説明します。

1. アドレスバーの **[証明書のエラー]** をクリックします。
2. **[証明書の表示]** をクリックします。
3. **[証明書のインストール]** をクリックします。
4. 証明書のインポートウィザードにおいて、**[現在のユーザー]** を選択して **[次へ]** を選択します。
5. **[証明書を次のストアに配置する]** を選択して、**[参照]** ボタンから **[信頼されたルート証明機関]** を選択して **[OK]** を押します。
6. **[次へ] [完了]** の順にクリックします。
7. インストールの確認に対して **[はい]** を選択します。

Web ブラウザーで開きなおすと、警告が表示されなくなります。

ただし、デフォルトの証明書はホスト名が `localhost` になっているため、別の端末から接続した場合には引き続き警告が表示されます。他の端末から接続したときにも警告を抑止したい場合は、*SSL* **証明書の変更方法** を実施して、ホスト名が `localhost` ではない SSL サーバー証明書を返すように設定してください。

3.4 SSL 証明書の変更方法

CO-CONV ライセンス サーバーは、デフォルトではホスト名が `localhost` となる SSL 証明書を利用しています。そのため、他の端末の Web ブラウザーから `https://hostname:49168/` のような URL に対して接続したときには、証明書の警告が必ず表示されます。そのようなケースでも証明書のエラーが表示されないようにするためには、CO-CONV ライセンス サーバーが利用する SSL 証明書を変更してください。

証明書の作成手順

最初に、SSL 証明書を作成します。たとえば、Windows 10 においては次のような PowerShell コマンドを発行することで SSL 証明書を発行できます。

```
# CO-CONV License Server My CA の部分が証明書の発行先になります。
# localhost の部分を変更すると URL のホスト部分を変更できます。
$cert = New-SelfSignedCertificate `
    -Subject "CN=CO-CONV License Server My CA" `
    -DnsName localhost `
    -NotAfter (Get-Date).AddYears(20) `
    -CertStoreLocation Cert:\CurrentUser\My

# MyPassword の部分を証明書のパスワードに置き換えてください
$pwd = ConvertTo-SecureString -string 'MyPassword' -Force -AsPlainText

# -FilePath のあとの部分に出力先のパスを指定します
Export-PfxCertificate -cert $cert `
    -FilePath C:\ProgramData\CO-CONV\LicenseServer\MyCert.pfx `
    -Password $pwd

# 証明書ストアから作成した証明書を削除します
$cert | Remove-Item
```

利用する証明書の変更手順

CO-CONV ライセンス サーバーが利用する証明書を変更するには、`C:\ProgramData\CO-CONV\LicenseServer\appsettings.json` を書き換えます。

管理者権限で起動したテキスト エディターで `appsettings.json` を開いてください。証明書のパス (`CertPath`) とパスワード (`CertPassword`) を作成した証明書の情報で置き換えて、保存します。

たとえば、前述の手順で作成した証明書の場合は次のように編集します (\ は \\ に置き換えて記述してください)。

```
{
  "Network": {
    // 待機するポート番号
    "Port": 49168,
```

(次のページに続く)

(前のページからの続き)

```
5
6       // 証明書のパス
7       "CertPath": "%ProgramData%\\CO-CONV\\LicenseServer\\MyCert.pfx",
8
9       // 証明書のパスワード
10      "CertPassword": "MyPassword"
11    }
12  }
```

サービスから **[CO-CONV ライセンス サーバー]** を再起動すると、新しい SSL 証明書を利用して動作するようになります。SSL 証明書を変更したあとは、Web ブラウザーで CO-CONV ライセンスサーバーを開いて、**証明書のエラーを抑止する手順** の手順を実施しなおしてください。

3.5 起動失敗の原因確認

サービスの開始でエラーが発生する場合は、管理者のコマンドプロンプトにおいて`"C:\Program Files\CO-CONV\LicenseServer\LicenseServer.exe" --console` を実行すると、理由がコマンドプロンプトに出力されます。

株式会社 シー・オー・コンヴ

CO-CONV ライセンス サーバー 5.0 ユーザー ガイド

2018 年 12 月 4 日 13 時 02 分版

(ID: 508f7e3)

- Windows は、米国 Microsoft 社の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他の会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。